師と出会う（はしがき③）

シーナ・フォスディック

各人の人生には、ある尋常でない信じられぬ出来事が起こり、しばしばその出来事が全人生の進路を変えて、夢に見たことすらない新しい方向へと向けます。その時にはこれまでの人生が終わり、新しい人生が始まるのです。まさにそれが、私がニコライ・コンスタンチノヴィチ・レーリヒと会った日に起きたことでした。

この世界的に有名なアーティストの最初のアメリカの展覧会は、1920年の冬から1921年にニューヨークで開催されました。母国であるロシアの外ではすでに有名で、報道機関がこの偉大なアーティストとそのヨーロッパの首都における成功を毎日の記事で伝えました。展覧会のカタログには、彼らが言うところの「400」もの有名人が後援者のリストに載っていました。

展覧会の初日はたいへん混雑していると確信していたので、初日に行くか、翌日に行くか、決めかねていました。そして、まるである力に引っ張られているかのように、私は初日に行くことに決めたのです。後に、新聞に初日は約1万人の入場者だったと書いてありましたが、ギャラリーのホール入り口で私が見たものは、別世界のような壮大な山々、青く澄んだ空、そして雲のすばらしく平和で調和のとれた、信じられないくらい美しい領域であり、自分にとって全く新しいものでした。私は「天使の宝」（The Treasure of the Angels)、「ペイガンラス」（Pagan Rus）、「恍惚」（Ecstasy）の3つの巨大なカンバスの前に立っていました。それらはレオナルド・ダ・ヴィンチ（\*1）のような偉大な巨匠だけが理解して絵に表現できる、超人的な美と平穏の作品でした。

イメージの中で、群衆は遠のき、静かになり、私は無限と向かい合って立っていました。自分のために住処を建てた最初の人、神聖な像を崇拝し神との親交にあずかっている人と、面と向かっていたのです。宇宙的に広大な開けた空間、山々、川、巨大な岩山、この世と天のメッセンジャー、つつましい聖人と英雄が、レーリヒの世界に住んでおり、その世界はレーリヒが真に偉大な芸術家として格段に差がつく寛大さで、人々に与えたものでした。私は息をころし、涙が目に浮かび、心は思考と感情に溢れていました。これまでの有限な世界は、別の世界、荘厳な美と智慧の世界に入れ替わっていました。

このすばらしい世界に夢中になっている状態から、偉大な芸術家に会うべきだと強くすすめる１人の知人によって現実に戻されました。私は今やっと大勢の人々に気付き、その芸術家が何千もの人々の顔を見て、会ってすぐに忘れる人たちに会わなければならないだろうことに気付き、どんなにか疲れて他のことに無関心だろうと考えると、ほとんど自分に行くよう強要せねばなりませんでした。

そしてそこに彼はいました。光に満ちた青い目で、平均的な身長。短い、先の細くなったひげ。ある種の友好的な力を発し、信じられないほど見透かす視線を向ける高貴な頭部。彼はまるで、人の魂の深みを通してその本質がわかるかのように見えました。妻のE・I・レーリヒは彼のそばに立ち、息をのむほど美しい人に見えました。私は紹介されました。彼らが私と笑顔で、母国語で話しているのを聞き、そして驚いたことに、夢で見ているかのように、まさしくその日の夜に自分がホテル・デ・アーティストへ招待されるのを聞いたのです。その日のすべての経験、偉大な芸術から与えられた最も深い印象に、少々呆然としました。私は招待を承諾しましたが、なぜ招待されたのか疑問に思いました。見知らぬ者だったのに、偉大な芸術家と同じくらい素晴らしい妻（彼女を見てそう感じました）に招待されるのを光栄に思って、夜まで待ちきれないぐらいでした。私が彼らの大きなスタジオに入って、素晴らしい歓待を受けた時、ロシアの国民性にとても自然だけれど他の民族には実に驚異的なサプライズが待ち受けていました。この偉大な人とその妻は、私をすでによく知っている者として扱ったのです！ さらに彼らは将来の計画、米国での使命、そして従事することになっている諸々について私に話し出したのと同時に、私の音楽と教師の仕事に深い関心を示しました。そして、最も驚くべきは、私たちの行く道が合流することになっていたことです。アメリカの若者たちに知識と芸術を広めるという仕事は、私を彼らに近づけることとなりました！

まさにその夜は私たちに共通の仕事のアイデアの礎石が据えられました。レーリヒ教授による組織、マスター・スクール・インスティトゥート・オブ・ユナイテッド・アーツの最初の創設です。その後に続いて他の総合的な文化施設ができることになっていました。それらは、コー・アーデンズ、コロナ・ムンディ、そしてもっと後にレーリヒ美術館、レーリヒ美術館の通信センター、多数のレーリヒ協会、その他の組織などです。その夜は私の弟子としての始まりとなり、のちにさらに発展して、ニコライ・コンスタンチノヴィチ・レーリヒの指導のもと精神的な弟子の道となったのでした。彼とエレナ・イワノヴナ・レーリヒと、たいへん親しく協力する中でのことでした。

けれども、その最初の夜の出会いで最高の喜びだったことは、私が師を見つけたという認識でした。深い智慧に満ちた彼の最初の言葉から、終始とても穏やかでシンプルに、骨折り仕事について私に話しました。彼の中に、崇高なメッセンジャーを感じ取りました。人々を神の知識の探求へと鼓舞するために、ハートと魂を上へと駆り立てるよう遣わされ、彼らにその探求において、いかにして堅固で大胆不敵になるかを教えるために来たメッセンジャーです。

彼の智慧は、この世的であると同時に天のものであり、思いやりに満ち、常に彼のところへ来た人の苦難を軽くしてあげていました。誰の名誉も傷つけたりせず、それどころか人間魂を高めさせ、最も狭い意識の持ち主の中にさえ良い種を見つけ出しました。

彼の教えてくれたことすべてを、どのように言葉にすればいいのでしょう。その偉大な智慧に耳を傾け、親しくしていた時を思い出して、私は争いと悲しみの中にある人々に対処する方法を学びました。許すけれど妥協はしない方法、現実を締め出さずに喜びを感じる方法、美を愛する方法、美を人間の精神の最高の成果の一つとして受け取ること、人類の偉大な教師を理解し、大事にする方法も学びました。この人生で師匠を見つけたことは、最高の幸福と幸運だったということを、私はただ繰り返すことができるのみです。つつましい感謝の気持ちで彼のことを、光の道と知識と私の人生における使命を示してくれた人と考えます。

常に私たちへの思いやりに満ちている人類の神聖な助力者は時々、人々に奉仕するために自己犠牲の超人的な行為を喜んで遂行し、可能な限り人々の不正によって引き起こされる破壊を回避するための使者を送ります。ニコライ・コンスタンチノヴィチ・レーリヒはこのような使者で、私にとって師であり、多くの人の教師でした。彼の純粋で高貴な芸術は、今日、世界中で多くの美術館や個人のコレクションに見ることができます。彼が書いた著作は多くの言語に翻訳されており、多くの美と智慧の探求者たちに読まれています。彼は自分の中に、往古からのすべての賢人と非凡な才能の総合物を包含する知識とを結合しました。同時に芸術家、哲学者、著述家、科学者、探検家、そして概念の広大な領域のマスターであり、その深さは遠く未来にまで及びます。彼は人生の障害物に打ち勝つために、ひたむきな勇気と大胆不敵さの例を示しました。モットーは「障害物に祝福あれ。障害物を通して私たちは成長する」です。わずかな進歩にも称賛を惜しむことなく、そのようにして人々をより高い奉仕へと奮い立たせました。喜んで善い魂を歓迎しましたが、彼の前に悪が現れたときは沈黙しました。 そして、この沈黙を通して、接近する悪を識別することを学ぶことができました。偉大な建設者である彼は、公益のための共同の骨折りへと人々を結束させました。

彼は超人的な忍耐、疲れを知らない創造性で、最も広い活動範囲をやり遂げ、最も身近な人たちに、文化に奉仕することと、奉仕の喜びを愛することと、すべての人々のためにいつでも文化を通して平和のために戦うことを教えました。

ニコライ・コンスタンティノヴィチ・レーリヒと近しいということは、いくつかの大学で同時に勉強するようなものでした。それは人類の歴史という遠い昔の海を潜航するような、あるいは現在の進化の流れの中で生きながら、人類の未来を予見しようと試みるために、この世的な知識を超えて努力するようなものでした。彼はそのような種類の知識を持ち、そして常にそれに向かって努力する他の人たちを助けて、その知識のベールをいつでも、できる限り、持ち上げたのでした。

彼に喜び、健康、平和、調和を求める人々に、それらをもたらしました。彼自身がそれらのすべてを放射していたからです。多くの人に、彼は途方もなく素晴らしい精神的な宝物を与え、その人たちの人生を大いに豊かにしました。飽かずに尽力し、自分の霊の宝を惜しみなく捧げ、完全に無私無欲で莫大な犠牲を払いました。自分の利益ではなく人類の利益のために種をまく人だったのです。高級な世界との交わりにおいて、彼はこの世を決して見捨てず、公益に仕えました。

彼は平和について語り、世界的に有名なレーリヒ条約と平和の旗印を作りました。彼の全存在が平和の光を放っていたからです。そして人類に惨禍つまり二つの世界大戦が起こる前にそれを予見しました。さらに心の中の大きな悲しみを込めて、第３の世界的なカタストロフィについて警告しました。世界の隅々に平和のメッセージを送り、空間を清め、人間の意識の成長を助けました。目に見える、そして見えない荘厳な建築物を多数創作した建築家でした。自分を導いた道を通して、彼は国々にたくさんの神聖な礎石を据え置きました。それらの祝福された礎石は残されており、人々の心の中に多くの崇高な熱望の火をつけました。創造性、芸術、思考。これらすべてに神聖な火がみなぎっていました。彼の意識は宇宙的意識でした。

私の師はいつでも生きています。師は私に、死も終わりもなく永遠だけがあると教えてくれました。この人生で私はめったにない贈り物を授かりました。偉大な魂、師に出会い、その弟子になることを許されたことです。

私は師の足跡を辿りたいと思っています。表現できない感謝を込めて、師の足跡を辿りたいと思います。永遠の人生の流れの中で、再び会うということを知っています。

S・G・フォスディック

ニューヨーク

1947年7月7日

＊＊＊＊＊＊＊

訳注

\*1 Leonard da Vinchi(1452-1519): イタリアの有名な画家、彫刻家、建築家、科学者（しかも神秘的な経験を避けない）、技師。

（星野 未来 訳）